

はてなの缶詰

大きな病院を受診するとき、「紹介状」が必要なのはなぜ？



大きな病院には患者さんが集中してしまふ

医療機関は大きく5つに分けることができます。①急性期の患者さんに特に高度な医療を行う「高度急性期病院」②急性期の患者さんの状態を早期安定化するために医療を行う「急性期病院」③在宅復帰に向けての医療やリハビリテーションを行う「回復期病院」④長期療養が必要な患者さんの医療を行う「慢性期病院」⑤最も地域に密着して、小さな相談にも乗る「診療所」です。それぞれ規模や役割が異なりますが、特に高度急性期病院には、「高度な医療を受けることができる」「専門的な医師がたくさん在籍している」などの理由により、受診を希望される患者さんが大勢いらっしゃいます。

キーワードは「命」

高度急性期病院の主な役割は、命の危険にさらされている患者さんを救

うこと。一方、診療所の主な役割は、体調不良の相談、慢性的な症状の管理、病気の予防・早期発見などです。医療者でなければ、「命」に関わる症状であるのかどうか、正確な判断が難しいことが大半のため、高度急性期病院では診療所などからの紹介制度を設けており、原則として医師からの「紹介状」をもとに高度な治療を行っているのです。

適切な医療を受けていただくために地域の医療機関との連携を強化

高度急性期病院である兵庫医科大学病院では、患者さんの症状に合った治療を受けていただくために、地域の医療機関と定期的に情報交換会を行い、より良い地域医療について検討しています。2016年4月には、当院と連携している地域の医療機関の医師を「登録医」とする「登録医制度」(武庫川クラブ)を開始。これにより、重い病気の疑いがある患者さんが診療所に来院した場合でも、必要な精密治療を行うために、登録医がすみやかに当院を紹介できる体制が整いました。当院は今後も地域医療機関との連携強化を進めていきます。